

続草庵集（頓阿）

続草庵和歌集巻第一

夏

前関白殿にて北野法樂三首に、螢

思ひせく滝かとみえて岩つたふ

水のよどみにとぶ螢かな

梶井宮二品親王家に、水辺螢

とぶ螢いはかき淵のいはねども

ふかき思ひぞもえてかくれぬ

同じころを

思ひをばけたぬものからみさびえの

あたりはなれず飛ぶ螢かな

とぶ蛍いはまの水にみだれても

思ひは猶やもらしかぬらん

二条入道大納言家にて、橋辺蛍、

ぬきとめぬ玉とみだれて東路の

をだえの橋に飛ぶ蛍かな

入道二品親王家五十首に、晩夏蛍

秋も早ちかのしほがまよる毎に

もゆるとみるは蛍なりけり

前関白殿にて、叢端蛍

草がくれ通ふ蛍は夏野ゆく

しかのうは毛のほしかとぞみる

夕螢

夕暮はおのれももえて蚊遣火の

煙の下にとぶ螢かな

「国歌大観」より